

## はじまり。

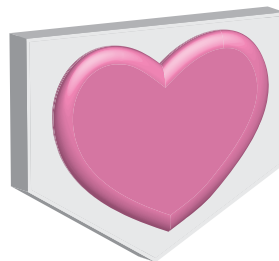
平川 佳美

高校2年生の秋、私たちの学校では校外学習という名の遠足のような行事があった。行き先は生徒が自ら決めてよく、学級委員中心で選んだ行き先は神戸だった。高校が大阪にあったので私たちは他府県に対する興味が強く、中でもデートの王道である神戸で満場一致したのだ。

当日、あまり記憶にはないが、最初はグリコの工場見学をして、近くの大きい公園でバーベキューをしたのを覚えている。夕焼けが差しかかった。でも学校に帰るには時間が早かったので、担任のアイデアでキックベースをすることになった。チーム分けをして、ポジションを決める。私は1年生の時の球技大会で、キックベースのピッチャーをしていて、投げるのには自身があったので立候補。他に立候補がいなかったのが、即決定。ただ私には1つ不安なことがあり、それは、キャッチするのがとても下手だということだ。ただのボールではなく、真上に上がったボールがキャッチ出来ないのだ。

不安に思いながらいざ勝負！頑張っているのだが、やはりキャッチが出来ない。チームのみんなにも迷惑かけてしまうし、なんでピッチャーになんか立候補したんだ…。と肩を落としていたら、また真上に飛んだボールが私のほうに！なんでこっち！！でも取るしかない！と思ってキャッチしようとした瞬間、視界の端に大きな影が突然現れ、だんだんと姿を現し、見慣れた顔の男の人がすごい勢いで軽々とボールを奪って行った。「あしたか、ナイスー」と味方の声をした。何が起きたのか分からずその場で固まっていると、隣にいた友達が、「あんな遠いところからご苦労さんやな」と言ったので振り返ってみると、夕日に当たってオレンジ色に縁取られた彼がいた。自分のポジションに戻って、傍にいた男友達となにやら会話をしているようだった。あの距離を走ってきたんか…と感心していると、目があつた。なんでもないことなのに、なんとなくゆる〜く時間が過ぎて行くような、止まったような、何かを見透かされているような、そんな感覚に陥る。…ん？なんか…変。パッと目を離し、前を向いて次のボールに集中！と構える。しかしなんとなく集中出来なかったのが、疲れた事を言い訳に友達と交代。ベンチに座りながら、試合を観戦する。試合が終盤になるにつれて白熱し、周りの友達たちの応援コールも激しくなる。すると、クラスでイケメンと言われている男子がファインプレーをした。キャーと黄色い声援が響いたが、ついていけない私に友達が言った。「さっきから上の空やけど、誰見てんの？」「…え？」

その時は自分でも気がついていない様だった。交代した時から無意識に目で追っていたのは、ボールをキャッチしてくれた彼。その瞬間、認識してしまった。あの人はボールを奪って行っただけじゃなくて、私の心も奪って行った。



## 新たな出会い

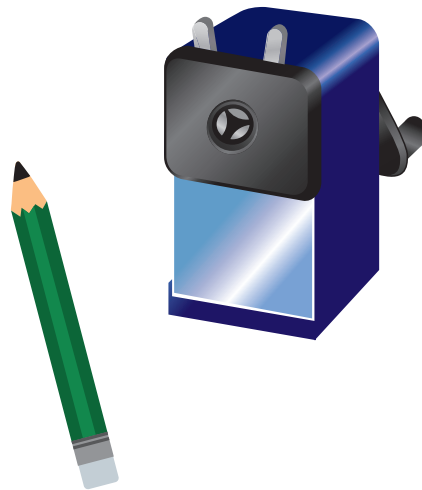
井並 徳子 (いなみ・のりこ)

私は4月に大学に入学し、友達出来るか、授業についていけるか、など様々な不安を抱えながら過ごしていた。そんな中、同じ学科の1回生が企画した新入生歓迎会が行われることになった。話せる人が増えるかもしれないと思い、参加することにした。当日になり、目的地に到着した。しかし、座席は指定されておらず適当に座ることとなった。その時、隣になったこの人と付き合うことになるとは思ってもみなかった。あだ名が特徴的であったが、私にはその意味が分からず、不思議な人だなとしか思っていなかった。新入生歓迎会が始まり、しゃぶしゃぶを食べながら、どのサークルに入りたいか、以前はどの部活に入っていたか、好きなことは何かなどを話した。私は中学の時吹奏楽部だったこともあり、音楽が好きで大学に入ったらサークルに入りたいと思っていた。しかし、他のサークルに入ったことで見学に行くことさえも諦めていた。隣の男性は音楽系のサークルに入るつもりだと言う。今度、見学に来ないかと誘われた。そこでその提案に私は乗ることにした。そこからこの男性と現代的であるが、LINEを始めることとなる。お互いが日をまたいでもLINEを返し続ける性格だったので、2,3週間毎日連絡を取り続けた。

日は経ち、五月祭という1回生主体の文化祭が近づいてきた。一緒に五月祭を回らないかと誘われ、回ることにした。後から聞いた話だが、酔っていた際に友達からノリで誘って見たらと言われ実際に誘ったということであった。その友達に感謝している。五月祭当日は、緊張したが一緒に回ることがとても楽しく、思っていることをそのまま話すことが出来た。

そして約一週間後に二人で映画に行くことになった。その時に私自身の過去の楽しい話も、暗い話も、好きなことも、いろんなことを話した。帰り際に付き合ってくださいと言われ、付き合うこととなった。

まさか新歓で席が隣になった人と付き合うとは思ってもみなかった。つまり、人は皆日々過ごしている中で気付いているかどうかは別にして、恋人だけではなく様々な人との出会いがあるわけである。その中で暮らしている私は幸せであり、また人との出会いを大切にしたいと思う。



## 好きな歌を聴いていて起きた奇跡

吉岡 あやの（よしおか・あやの）

これは友人から聞いた実話です。

「僕の好きな歌。気分のいい時に聴くその歌が、僕はとても好きだった。あれは高1の春、いつものように学校帰りにその歌を聴いていた僕は、周りの音が聞こえていなかったせいで誰かとぶつかった。謝ろうと振り向いたとき、僕は言葉を失う。

一目ぼれだった。

それは隣のクラスの女子だった。その日から僕の猛アピールが始まった。アタックしてアタックして断られ続け、それでも諦めるどころか、恋心は増していった。もはや、彼女と僕の根気勝負だった。

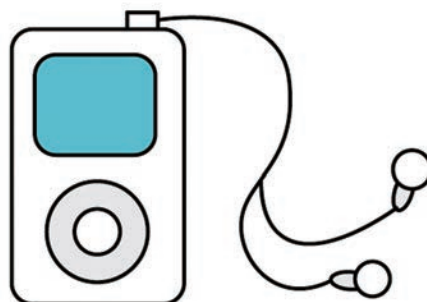
ようやく彼女の恋人になることができたのは、翌年の春、彼女と出会って丸一年がたとうとしていた。

その日、僕は彼女と出会った日のことを思い出しながらお気に入りの音楽を何度も聴いた。

けれど、僕の幸せは長くは続かなかった。彼女が引っ越すことになったのである。遠距離恋愛になった僕らの恋は長くは続かず、自然と消滅していった。

季節が巡って僕は大学生になった。淡い期待を抱いて、大学は彼女の引っ越し先の近くを選んだ。女々しいといわれても仕方がない。けれど、彼女には会えぬまま、今日も僕はお気に入りの音楽を聴きながら帰る。

ふと、肩がぶつかった気がした。振り向いて言葉を失う。出会ってから4年。大好きな音楽の中で、さらにきれいになった彼女に、僕は二度目の恋をした。」



# Surprising Time from My Friends

柿内 優樹

## 21歳のバースデイ

21歳。今年で21歳だ。花の20歳も終わって21歳になる10月2日。誕生日のことなんか忘れてしまっていた。ふとちあきから連絡がきた。それは誕生日3日前のことであった。めったにちあきから連絡なんかこない。夏休み中なにしてたんやろってくらい連絡来てなかったのに。いきなり招待状が届いた。18時50分に大阪駅で待ち合わせ。パーティースタイルでくること。けしてババアコーデでは来てはいけない、という内容が書かれていたのであった。そして、最後に「女二人で楽しみましょう」の文字が……。誕生日の日空けていてって言われていたが、何も連絡こなかったのてつきり忘れてしまったのだと思っていた私にとって、この招待状はすごく度肝をぬかれた。去年もちあきにはたくさんのサプライズをしてもらったのだが、その後いろいろなあつてなにかしっくり来ない誕生日を過ごしていた。今年はちあきとの予定のみ。

## 脱ババアコーデ

楽しみでその後3日間、パーティーコーデのために難波や天王寺を走り回った。当日早く起きたものの、2度寝、3度寝をしている間に時間は刻々と近づいていた。私はずっと考えていた髪形にセットして、本当にこれで大丈夫かをお母さんに確認しながらそそくさと家を出たのであった。梅田までの道のりは結構遠くてまだかな〜と電車で揺られていると延着やなんかで5分ほど遅れてしまう羽目になった。しかしちあきの言うとおりの集合場所に行くがちあきの姿は見つからない。連絡をするとちあきの言っている場所と今いる場所がぜんぜん違った。そこからふたりはあっちやこっちやと探し回っているうちにやっと出会えることができた。見るとちあきはとってもかわいらしい格好をしていた。久しぶりにあったので少し人見知りでおどおどしたけど、何とかもちなおして夏休み中にあったあれやこれやを楽しく話していた。

歩いていくととてつもなく大きなビル街にきていた。「え、ここなん？」ついそうつぶやいてしまうくらい大きなビルの前でちあきは止まった。それからエレベーターに乗ったのだが、押した階は最上階。「そんなとこのレストランいくの?!?!」ずっと私は驚きっぱなしだった。お店に入りきれいな見た目に驚いていると中に誘導された。なかに入ると人がいた。あつ。場所間違えた?っと思っただがよくみるとおなじみのけん、しゅんき、たかもがそこにはいた。「え?女二人っていったやん」とお店のなかなのに大きなこえで叫んでしまった。そう。普通にだまされてしまっていた。あとから周りの友達に聞いたのだが、女ふたりなわけがなからうといわれた。逆にわからなかったのかとののしられた。私は普通に俺俺詐欺とかにひっかかってしまう人かもしれない。

## 初めてのシャンパン

話はもどってパーティー会場。終始驚きつつシャンパンで乾杯をした。これは人生初である。久々にみんなにあったから話もまともにできていなかった。お料理はどれもおいしくて泣きそうだった。最後に出てきたデザートには誕生日仕様のメッセージが書かれていた。ただ笑ってしまったことに、そこに書いている名前は“みゆき”になっていた。わたしは“ゆうき”だ。このあと驚きのプレゼントが。学部の人や地元の友達からのメッセージを集めてのメッセージブックをもらった。どうやって連絡とったの?!という友達からのメッセージもあった。ちあきのネットワークは本当になめられない。すばらしいプレゼントをもらってすばらしい誕生日を迎えられた。ちあきは本当に毎年毎年すごいサプライズをしてくれる。次のちあきの誕生日なにをしようか……。日々そのことを考えながら生きていくことにする。

シンデレラになれたかな by kenchama

# 走行距離2000km 4日間の旅

～ご馳走と絶景を求めて～

井上 真貴 (いのうえ・まき)

私は11月16日から19日の4日間、北海道旅行にバイト先の4人で行ってきた。二か月ほど前の決定当初には特に北海道には目的もなく、なんとなく北海道。それから毎週水曜日には計画を立てる会と称した毎週の飲み会を開催し、旅のしおりを完成させる。旅の目標はいっぱい楽しむこと！風邪をひかないこと！5kg太ること！

今回の旅行は往復の飛行機とホテルとレンタカーがセットになったプランで、移動は北海道での移動は基本レンタカーを予定していた。しかし、出発の日が近づくにつれて問題が見えてきた。この時期の北海道はもう積雪しているということだ。奈良県出身の4人はもちろん雪道を車で走ったことなどない。結果的にこの4日間、私たちは車で事故なく無事移動することができた。その移動距離約2000km。

1日目は飛行機が着くのが夜だったので新千歳から札幌の移動のみだが、しっかり念願の札幌味噌ラーメンを食べる。バターコーンが入っていて、北海道を感じた。その後、北海道名物が食べられる居酒屋へ行く。ここでホッケとカキとザンギを食べる。若干の錯覚は入っているかもしれないけれど、本州では食べられない味で、口に入れた瞬間みんなの顔が緩む至福の時であった。もったいなかったのでちょびちょび食べる。コンビニに寄ってホテルで二次会。目標の「5kg太ること！」への準備は着々と進んでいる。

2日目は宗谷岬の絶景と日本最北端に行ったという証がほしいがために、4人で運転すれば1人2時間半だから余裕ということで往復10時間超のドライブをした。北へ北へと進めるにつれてあたり一面雪景色で視界は悪くなる。雪が降っている高速はまだ比較的楽に運転できたのだが、雪の山道の区間に運転が回ってきた友達は大ハズレで、ときどきタイヤが滑っていてこっちまでひやひやものだった。私は稚内の町中の雪道を少し運転したけれど、それだけでも緊張のあまりハンドルを持つ手の小指は立っていた。それでも北海道の冬仕様のレンタカー、スタッドレスタイヤで四輪駆動のトヨタのVitzはとてよくがんばってくれていた。そしてようやく最北端に到着し車から出ると、今までにない極寒で早く車に戻りたい気持ちが大きかった。手短かに最北端のかっこいいオブジェと記念撮影をして証をゲットし車で引き返す。ここでは野生のキツネが野良猫のように家の間を走っているのも見ることができた。こんなハードな1日も「5kg太ること！」への努力は怠らず、ついでに小樽にも足をのばした。

3日目は五稜郭と函館山の夜景を目指して函館へ向かう。この日も山道雪道を通ることになる。途中、ガソリンがかつかつであることに気づき冷や冷やするも通過した集落で給油することができ、一安心する。給油中や片側通行の待ち時間は雪遊びでしっかり北海道の雪を堪能した。五稜郭は星形だった。それよりも感動したのが函館山の夜景のほうだった。さすが日本三大夜景！何万ドルの夜景やったかな？とか考えながら、寒いなどか思いながら、しばらく見とれていた。ここも宗谷岬に次いで寒かったので、写真を撮るために手を出すのも億劫になりそうだった。この日も最後の夜ということで、いつものように札幌に帰って北海道名物とお酒を堪能した。私は生まれて初めて銀ムツという魚を食べた。出てきたその魚は私たちが思っているよりもはるかに大きく、油がたっぷり乗っていて、まる

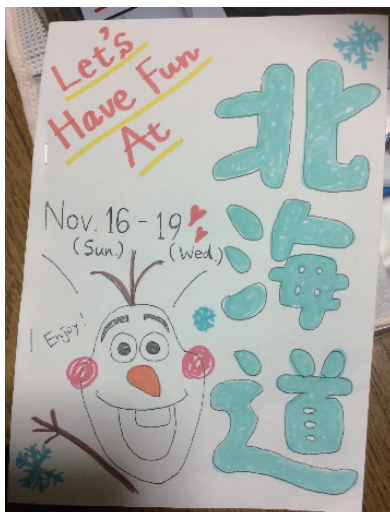
でケンタッキーのフライドチキンだった。他には注文した後で捌いてくれるイカのお刺身を踊り食いして、生ガキにカニにとたらふく食べた。

最終日も全員元気に出発し、旭山動物園を観光し、ガイドブックでとてもきれいな写真が載っていた青い池へ向かう。しかし、青い池に着くと池が見当たらない。あれ？みんなで探したところ、凍って池全面に雪が積もっていた。これは予想外で、楽しみにしていただけあってショックが大きかった。ここでは気を取り戻して、雪遊びをすることにした。

4日間のこの旅を終えて奈良に帰った翌日、全員が食べ過ぎによる腹痛と疲れにより寝込むことになったが、こんなに無茶できるのは学生ならではのと思った。(疲れが旅行中にでなかったのが幸い。) 札幌、稚内、小樽、函館、旭川、美瑛へ行き、ラーメン、海鮮など北海道ならではのものを食べ尽せたこの旅行はとても充実したものになった。

PS 私は5kg太ることができたかという、帰った直後は体重を測る元気がなく、胃もたれにより1日断食した後に測った為、プラスマイナスゼロだった。

## 旅の写真集



しおり



札幌ラーメン



雪道



宗谷岬



函館山からの夜景



見たかった青い池



現実



海鮮丼



みんなありがとう！